

2015年春、森美術館リニューアルオープン

—新しいプログラムの展開で、世界の現代アートをより多角的に体験する場へ—

森美術館は、改修工事にともなう休館(2015年1月5日-4月24日)を経て、2015年4月25日(土)にリニューアルオープンします。

弊館は開館以来、「現代性」と「国際性」を理念に掲げ、世界の多様な現代アートの動向を紹介する「企画展」と、世界各地の才能豊かな若手アーティストを応援する小型の個展「MAMプロジェクト」を並行して開催してきました。開館から10年余りたち、グローバルに広がる現代アートの様相がますます複雑さを増すなか、多くの現代美術館は、さまざまな地域から生み出される作品固有の文化的、社会的、歴史的背景を、より多くの観客といかに共有できるか、という新しい課題に直面しています。

こうした状況を踏まえ、弊館は施設の改修を機に、活動の機軸である「企画展」と従来の「MAMプロジェクト」に加え、新たに三つの小プログラム「MAMコレクション」、「MAMスクリーン」、「MAMリサーチ」を展開。展覧会プログラムの複層化を図ることによって、世界の現代アートをより多角的に体験する場へと生まれ変わります。

2020年東京オリンピックを控えたこの東京で、世界に開かれた現代美術館として、またアジアにおける現代美術の重要な拠点として新たなステージへと踏み出す森美術館に、どうぞご期待ください。

■ 2015年度企画展スケジュール

「シンプルなかたち展」 2015年4月25日(土)-7月5日(日)

「ディン・Q・レ展」 2015年7月25日(土)-10月12日(月・祝)

■ 新プログラム

「MAMコレクション」— 森美術館のコレクションを常設の展示室で順次公開

「MAMスクリーン」— 映像プログラムを単独企画として刷新

「MAMリサーチ」— 展覧会のリサーチ・プロセスを独立したプログラムとして展示

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

シンプルなかたち展

会期：2015年4月25日(土)－7月5日(日)

主催：森美術館、ボンビドゥー・センター・メッセ

特別共催：エルメス財団 後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

企画：ジャン・ド・ロワジー(パレ・ド・トーキョー・プレジデント)、南條史生(森美術館館長)

近代の美術は、多数の単純で美しい美術作品を生み出しました。ヨーロッパでは19世紀から20世紀にかけて、数学、機械工学、生物学、地質学や考古学の探求の中で「シンプルなかたち」が再認識され、工業製品や建築のデザインなどに多大な影響を与えました。また、その品格ある魅力は多くのアーティスト達を魅了し、近代芸術の多数の名作に結実したのです。

一方、このような単純で美しい形は、自然の中や、多くの国の伝統文化の中にも見出すことができます。石器やバードストーンなどのように、世界各地のプリミティブアートや民俗芸術の中にも多くの「シンプルなかたち」が登場します。日本においては工芸、茶道、禅画などに、同様の美学が体現されています。

本展では、このような「シンプルなかたち」について、地理的な広がりや歴史的なつながりを示しながら、ダイナミックで尖鋭な現代美術のインスタレーションもあわせて紹介し、これらに共通する時空を越えた普遍的な美を描き出します。

複雑化する現代社会において、飾らず、おごらず、原点に立ち返る「シンプルなかたち」は我々が生きる上で真の豊かさとは何かを問いかけてくれるのではないのでしょうか。

*なお本展はボンビドゥー・センター・メッセで開催中の展覧会(会期：2014年6月13日-2015年1月5日)を、エルメス財団の支援によって日本に巡回し、森美術館が再構成するものです。

出展予定作家 ※姓のアルファベット順

ジャン・アルプ、カール・ブロスフェルト、コンスタンティン・ブランクーシ、ブラッサイ、マルク・クチュリエ、マルセル・デュシャン、アルブレヒト・デューラー、オラファー・エリアソン、ルチオ・フォンタナ、スザンナ・フリッチャー、エルスワース・ケリー、イヴ・クライン、クブカ(クブカ・フランティセック)、李禹煥、マン・レイ、エティエンヌ＝ジュール・マレー、アンソニー・マッコール、ジョン・マックラッケン、パトリック・ヌー、パーネット・ニューマン、西川勝人、ナム・ジュン・パイク、アントワーヌ・ペヴスナー、エマニュエル・ソーニエ、ホセ・マリア・シシリア、エドワード・スタイクン、杉本博司、田中信行、ヴォルフガング・ティルマンズ、蔡佳蔵(ツァイ・チャウエイ)、ジェームス・タレル、グザビエ・ペイヤン



ルチオ・フォンタナ
《空間概念》 1962年
油彩、キャンバス
100×73 cm
滋賀県立近代美術館蔵
Spatial Concept, 1962 © Lucio Fontana by SIAE 2014
D0706



コンスタンティン・ブランクーシ
《空間の鳥》 1936年
石膏 183.5×14×15.5 cm
ボンビドゥー・センター国立近代美術館蔵、パリ
© ADACP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014
D0706



作者不詳
《バードストーン》 制作年不明
粘板岩 4.8×10.2 cm
アーレンベルグ・コレクション蔵、スイス



アンソニー・マッコール
《円錐を描く線 2.0》 1973/2010年
映像インスタレーション サイズ可変

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

ディン・Q・レ展

会期：2015年7月25日(土)－10月12日(月・祝)

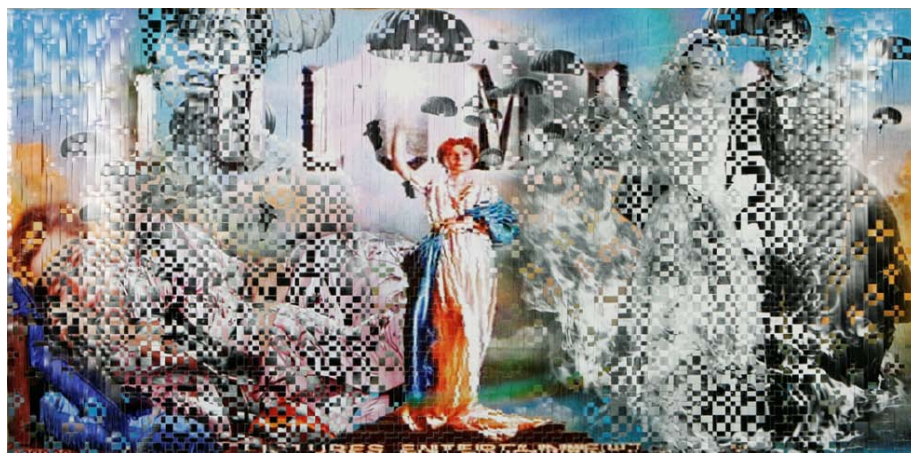
主催：森美術館

企画：荒木夏実(森美術館キュレーター)

1968年にカンボジアとの国境付近であるベトナムのハーティエンに生まれたディン・Q・レは、ポール・ポト派の侵攻を逃れるため、10歳の時、家族とともにアメリカに渡りました。写真とメディア・アートを学んだ後、ベトナムの伝統的なゴザの編み方から着想を得て、写真を裁断してタペストリー状に編む作品を制作し、一躍注目されました。この「フォト・ウィービング」シリーズは、ベトナム戦争をはじめ、カンボジアの遺跡、ハリウッド映画など多様なイメージがぼんやりと浮かびあがり、作品を見る角度や立ち位置によって見え方が変化します。

また、レは綿密なリサーチとインタビューに基づき、個人が実体験として語る歴史に光を当てます。彼の名を世界的に知らしめた映像インスタレーション作品《農民とヘリコプター》(2006年)では、自作のヘリコプターの開発に挑むベトナム人男性を中心に、ベトナム人と戦争との複雑な関係を巧みに描きました。また前回のカッセル・ドクメンタ(ドイツ)における《光、そして信じること：ベトナム戦争からの声とスケッチ》(2012年)では、元従軍画家たちが当時描いた100点のドローイングと水彩画の展示とともに、戦場での彼らの青春を生き活きと蘇らせる映像作品を発表しています。

グローバル化が進み、価値観が多様化する現代の世界において、国家や社会の「公式な」歴史の陰で見落とされてきた、個々人の体験談から歴史を読み直すことが求められています。今最も活躍するアジアのアーティストの一人、ディン・Q・レの作品を通して、より親密で多様な世界の風景と歴史が見えてくるでしょう。



ディン・Q・レ
《無題(ミラノ002)》
(「ベトナムからハリウッドまで」シリーズより)
2004年
カラー写真、リネンテープ
97×183 cm



ディン・Q・レ
《農民とヘリコプター》
2006年
3チャンネルビデオ、サウンド、ヘリコプター
15分
Commissioned by Queensland Gallery of Modern Art, Australia

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

新プログラム

森美術館のコレクションを常設の展示室で順次公開

MAMコレクション

森美術館は、2005年夏より企画展のための新作を中心に作品を収集してきました。日本を含むアジアの現代美術に焦点をあてたコレクションは、現在286点となっています。作品を収集し、公開することは美術館の基本的な活動のひとつですが、常設の展示室を新設することにより、コレクション作品を順次紹介していくことが可能になります。担当キュレーターが企画したテーマに沿って作品を選び、生活空間に近い環境でそれらを紹介することによって、美術館のモットーである「アート&ライフ」の実現に向けた提案をしていきます。

映像プログラムを単独企画として刷新

MAMスクリーン

「MAMスクリーン」は、開館以来、森美術館の企画展に関連したアート映像を、六本木ヒルズ内の大型スクリーンやPDPモニターなどを使って月替わりで上映するプログラムとして2013年2月まで実施されました。この度の改修によって、森美術館内にさらに充実した映像上映、講演会などのための施設が整うことを機に、「MAMスクリーン」はシングルスクリーンの映像作品を上映する独立したプログラムとして生まれ変わります。「MAMスクリーン」では、担当キュレーターがテーマに沿った映像プログラムを企画し、森美術館が収蔵する映像作品も対象にするほか、多様化する現代アートの映像表現を視野に入れながら、通常の展覧会の枠組みではなかなか鑑賞できない長編作品も、じっくりご覧いただけるような環境を整え、より充実した映像体験をお届けします。

展覧会のリサーチ・プロセスを独立企画として展示

MAMリサーチ

森美術館は、日本とアジアの現代美術をプログラムの主要な対象に位置づけていますが、ひとことで「アジア」と言ってもその領域は広大で、全体像を把握するのは容易ではありません。近年ではアジア地域で多様に発展してきた近現代美術の歴史的な比較研究も進んでいます。新たに創設する「MAMリサーチ」は、こうした状況を踏まえ、アジア各地におけるアーティスト、キュレーター、芸術運動、インスティテューションなどに注目し、アジアを構成するそれら「断片」の集積を通して、今日のアジア現代美術を成り立たせている歴史的、政治的、文化的な文脈を明らかにしていこうとする試みです。「MAMリサーチ」は、アジア各地のアーカイブ、研究機関、研究者などとの協働企画を前提とし、森美術館を多様な議論のためのプラットフォームとするプログラムです。また、具体的な展示は「作品」に限定せず、映像、写真、文書、史料などもあわせて紹介することで、時代的、社会的な背景をよりリアルに実感していただきたいと考えています。

こうしたリサーチの一部が将来的に大規模な企画展に反映されることも視野に入れていますが、当面はアジアに関するさまざまな知識や多様な視点を観客のみなさんと共有し、蓄積していくためのプロジェクトとして位置づけたいと考えています。

「MAMリサーチ」は、これまで世界各地の若手アーティストを紹介してきた「MAMプロジェクト」と同じスペースで交互に開催される予定です。

- 最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。 <https://mam-media.com/jp/press-img>
- プレス画像ストックにない画像をご希望の際は、森美術館広報宛メールまたはFAXにてお問い合わせください。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館